TRIBUNE SHIKOKU

編集部では、読者の皆さんからの情報提供や投稿を募集しています。また当社HP上にて、NET-NEWS(¥8,400)を設け、最新情報を発信しています。

情報提供や購読希望の方はご連絡ください。
☎(088)664-5004
FAX(088)664-4809
E-mail-tribune@mail.planning21.ne.jp

tribuneしこく トリビューン

昭和31年2月27日 第三種郵便物認可　第1611号 令和7年10月25日（土曜日）

《毎月5・15・25日発行》
発行所 株式会社トリビューンしこく
〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目4-10
電話(088)664-5219　FAX(088)664-4809
年間購読料 7,500円
阿波銀行県庁支店/口座番号・普通0318279
徳島銀行県庁支店/口座番号・普通5283742
郵便振替口座/01650-6-22468
【掲載記事、写真等の無断転用を禁止します】

四国第二十三番霊場・厄除の寺
阿波・日和佐
薬王寺
新春薬師初護摩祈祷厳修
弘法大師厄除御祈願所

当山恒例法会厄

厄除越年会	大晦日
新春初祈祷	1月1、2、3日
節分星供	2月3日
厄除初会式	2月11、12日
涅槃会	2月15日
釈尊花祭	4月8日
正御影供	4月21日
夏会式	旧5月晦日
弘法大師降誕会	6月15日
盂蘭盆会	8月13、14、15、16日
施餓鬼会	8月16日
鎮守祭	10月15日

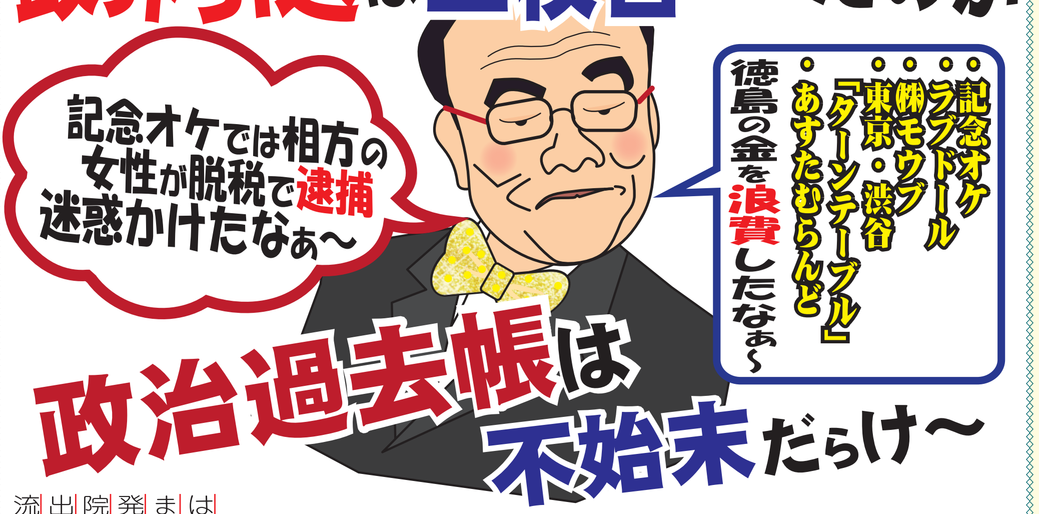
海部郡美波町日和佐 TEL(0884)77-0023

とりびゅーん・しこく

就任後二年を経過した後藤田知事。知事選で徳島再生や県政刷新をアピールし、タイとのLCC就航など六十項目以上の施策を打ち出したが、「海外にはよく行くが、県民が豊かさを実感できる施策は実現できているのか」と批判が噴いている。

政界引退は二枚舌だったのか

政治過去帳は不始末だらけ〜


記念オケでは相方の女性が脱税で逮捕
迷惑かけたなぁ〜
・記念オケ
・ラブドール
・㈱モウブ
・東京・渋谷「ターンテーブル」
・あすたむらんど
徳島の金を浪費したなぁ〜

第十三代全国知事会長が松茂町で鳴りを潜めている。昨年十月衆院選で落選したが、政治団体は松茂町で今も存続。七月末にSNSの情報発信も再開。「徳島二区から国民民主公認で出るのか」との怪情報も流れた。五期二十年の知事活動で記念オケ疑惑など負の遺産を残した飯泉元知事。衆院選落選時の政界引退宣言は、県民を欺く戯れ言だったのか。

継続　松茂町で政治活動を

飯泉元知事は昨年十月の衆院選徳島二区で落選。政界引退を宣言した。徳島市仲之町のマンションを引き払い、妻が住む千葉県流山市に帰ったものと思われた。

政治団体は解散しなかった。飯泉嘉門後援会など三政治団体は松茂町に移転。会計責任者に県OBの山口泰輝氏が復活した。三団体がプールする政治資金は約四百万円だ。

今年七月末からは「板野郡に引っ越しました」などSNSの発信も再開。「次期衆院選に国民民主公認で出馬か」との怪情報が流れ、「政界カムバックか」と動向が注目された。

松茂で鳴りを潜める　飯泉元知事

怪情報はデマだった。国民民主は「そんな話はまったくない」と全面否定。次期衆院選徳島二区の公認あるいは推薦候補の選択肢に飯泉元知事の名前はないようだ。

国民民主は昨年衆院選徳島二区で飯泉元知事を推薦したが、両者は当初からボタンの掛け違いや思惑の相違があった。選挙後もひと悶着あるなど、しっくり行っていない。

飯泉元知事は当初、国民民主に対し徳島一区での推薦を依頼した。国民民主は「勝算がない」「連合が高橋永氏を支援する」との理由で拒否。飯泉元知事は徳島二区へと方向転換した。

衆院選出馬の理由付けとして飯泉元知事は「国民民主の方から推薦を打診したことにしてくれ」と依頼。国民民主も飯泉元知事の顔を立てて、三文芝居を演出した。

政治団体を存続させ、次期衆院選を窺う飯泉元知事。無所属出馬で、昨年獲得した保守票や自民と離反した公明票を取り込めば、昨年同様侮れない存在になる可能性はある。

五期二十年で残した「負のレガシー」

政界引退宣言したものの、政治団体の存続など松茂町で政治的残り火がくすぶる飯泉元知事。次期衆院選に出馬するかどうかは本人の勝手だが、状況はそんなに甘くない。

五期二十年の「政治過去帳」を見ると、目につくのは負のレガシー。「徳島発の政策提言」「第十三代全国知事会長」を喧伝したが、徳島発展を県民に実感させる実績は少ない。

総務官僚から転身した飯泉元知事。県政運営の特長は、ソフト事業中心のイベント県政だった。サッカー、マラソン、オーケストラ…。お手軽イベントで県民の歓心を買った。

イベントも自らの趣味を優先した。象徴事例がとくしま記念オーケストラ。ピアノを嗜む飯泉元知事が懇意の女性社長と自前のオーケストラを設立。音楽にうつつを抜かした。

政治団体存続

投入した県費は七年間で約十億円。八億円が女性社長経営のプロダクションに流れ、約三億円が女性社長の懐に入った。女性社長は脱税が摘発され、飯泉元知事は大恥をかいた。

単発イベントに莫大な県費を投入した飯泉元知事。イベント効果は一過性。約十億円を投入した記念オケ事業の持続可能な文化レガシーは、現在かけらも見られない。

ホール、アリーナ、後手に回った拠点整備

任期四年間で県民に実績を誇示できるイベント行政を優先した飯泉元知事。四年以上の時間がかかる「ものづくり」は遅れた。ホールやアリーナの交流拠点だ。

ホールは徳島市の事業としてスタートした。県市協調が問われたが、飯泉元知事は政治的思惑や面子を優先。徳島市に対し行政的ハラスメントを連発。ホール整備にブレーキをかけた。

原市政時代は都市計画の知事同意でいちゃもんを付け、県課長を自殺に追い込んだ。一期目の遠藤市政時代は県有地の貸与問題で遠藤市長の対応が気に食わず、協議をやめた。

アリーナは、国が平成二十八年に国内二十か所の整備方針を打ち出したが、当時政敵だった後藤田衆院議員が駅北アリーナを提唱したため、国と連動しなかった。

五期目終盤に県議会の提言を受けて東工業高校跡地でアリーナ構想を打ち出したが、他県に遅れを取った二番煎じ、三番煎じの「周回遅れアリーナ」だった。

一過性イベントで県民の歓心を買い、時間のかかる「ものづくり」実績がない飯泉元知事。「二十年間で徳島はどれだけ発展したのか」と県民が疑問を抱くのも当然だ。

疑問呼ぶ政治資質、致命的な「人間力」の欠如

政治資質も疑問を呼んだ。政治家に求められる義理人情や人間味、弱者に対する思いやりの欠如だ。一例が衆院選徳島二区への出馬。大恩ある山口衆院議員に宣戦布告した。

「衆院選出馬」の怪情報も

飯泉元知事は令和五年知事選で山口衆院議員の支援を受けた。大雨の中、出陣式に駆け付け、支援を呼びかけた。翌年、飯泉元知事は山口衆院議員に反旗を翻した。

選挙の借りは選挙で返すのが、政治家に求められる不文律のマナー。山口衆院議員の首を取りに行った飯泉元知事は、義理人情のかけらもない「下衆政治家」と評価を下げた。

飯泉元知事は選挙中に、三好市内で「地元の方々から『俊ちゃんはちっとも言うことを聞いてくれない』という声がある」と山口衆院議員をこき下ろし、「そこまで言うか」と県民をあきれさせた。

社会的弱者に対する配慮のなさ、上から目線の人間性も度々露呈した。記者会見で身振り手振りで多動症候群を揶揄。舌禍騒動に発展し、謝罪に追い込まれた。

妖怪博のPR動画では、「妖怪博を堪能してください。堪能し過ぎて胆嚢炎にならないように」と発言。「胆嚢炎で苦しむ人の気持ちがわからないのか」と批判を招いた。

灘高、東大、総務省とエリートコースを歩み、知事に転身した飯泉氏。第十三代全国知事会長にまで登り詰めたが、他者への思いやりなど政治家に求められる「人間力」が希薄だった。

知事選、衆院選と相次ぎ落選。落ち武者として松茂町で鳴りを潜める飯泉元知事。政界引退宣言を反故にして、衆院選リベンジ出馬の暴挙に走るなら、贈る言葉は一つ。「赤っ恥第十三代全国知事会長…」。

見〜つけた!! 街角美人 No.154

飛騨市の観光名所、江戸時代の面影が残る白壁土蔵街で出会ったインバウンド美女。日本人と思い、声をかけたら台湾人だった。台北からの観光客。家族全員で飛騨市内の観光を楽しんでいた。鯉を放し飼いしている小川の畔を散策していた。

鯉のえさを分けてあげると、笑顔で「サンキュー」。チャーミングな二十八歳だ。同行したおじいさんは日本語がわかる親日派。

「おじいさんの行きたいところを観光しています」。家族思いの台湾美人だ。

飛騨市 都竹市長がまちづくりを激白

阿波市 町田市長と対談 後編

町田・阿波市長と都竹（つづく）・飛騨市長の対談では、地域活性化やブランド戦略、国際交流などもテーマに上った。人口約二万人で、インバウンド客が押し寄せる高山市に隣接する飛騨市。都竹市長は観光振興のポイントとして、「徹底した地域資源の掘り起こし」を強調した。

▲ふるさと納税の活用やブランド戦略など、まちづくりについて活発に意見交換する町田市長（右）と都竹市長。

「飛騨市は人が住むまち」、特性を生かした観光戦略

飛騨市の年間観光客は約百万人。隣の高山市の約五分の一だ。高山市には江戸時代の面影を残す町並みや世界遺産の白川郷があり、インバウンド客が押し寄せている。

都竹市長は「飛騨市は高山市とは違う」として、「爆発的にインバウンド客が来るということと同じことをやろうという考えはもともと持っていない」との認識を示す。

「飛騨市は観光客がわぁーときて見物するまちではなく、人が住むまちなんです。宿泊施設も少なく、爆発的に人が来てもお金が落ちない仕組みになっています。

そういうところは志向せずに、少ない人数でも落ち着いた街並みをじっくり見てもらうという観光戦略を取っています。薬草のまちづくりなどはまさにそれです」（都竹市長）。

廃線を活用したレールマウンテンバイク

都竹市長が着目したのが、地域資源の掘り起こしや利活用だ。代表事例がレールマウンテンバイクだ。廃線になった神岡鉄道の上を自転車で走れるというものだ。

レール等の施設のメインテナンスやコース整備は飛騨市が行い、「ガッタン ゴー」と呼ばれる自転車の運用はNPO法人が行う。官民協働で行う体験観光事業だ。

「昨年一年間の利用者は約八万人。長良川の鵜飼いが年間約八万四千人。NPO法人の年間利益が約一千万円。それを再投資してもらうというやり方です」（都竹市長）。

「スーパーカミオカンデ」という宇宙物理学の実験施設にも目を付けた。ノーベル賞受賞者を二人輩出（二〇〇二年にノーベル物理学賞・小柴昌俊氏、ノーベル物理学賞・二〇一五年に梶田隆章氏）している東大の施設だが、PRの役割を飛騨市が引き受けた。

道の駅の売店を改修して飛騨宇宙科学館神岡ラボという宇宙物理学が体感できる施設を整備した。財源には企業版ふるさと納税と合併特例債を活用した。

年間入場者は十三万人。飛騨市はふるさと納税に宇宙物理学の支援というメニューを作り、寄付を募集している。年間の寄付額は約五千万円。収入となる半額の二千五百万円で施設を運営している。

施設の入場料は無料。入場者は年々増えている。年間の運営費は約一千万円。収支は大幅な黒字で、剰余金はすべて将来的なリニューアルに備えて積み立てている。

「市税を一銭も使わず、入場料は無料、寄付だけで運営してリニューアルにまで持っていくというやり方です。こういう施設は中身をリニューアルしていかないといけないんです。

施設を作った時から、リニューアルに向けて積み立てをしているんです。いま積立金は一億三、四千万円になっています。いつでもリニューアルに取り掛かれる状態です。

薬草のまちづくりはただの草、レールマウンテンバイクは使われなくなった廃線、神岡ラボは実験施設。それらを資源として使うことで観光に活用できるんです」（都竹市長）。

レールマウンテンバイク、神岡ラボ、
道の駅 スカイドーム神岡
「地域資源を掘り起こせ」
薬草のまちづくり…
飛騨古川駅東開発
日台交流
▲飛騨市に実験施設「スーパーカミオカンデ」がある東大の宇宙物理学研究では、小柴昌俊教授と梶田隆章教授がノーベル賞を受賞した。体験施設「ひだ宇宙科学館カミオカラボ」は多くの入場者で賑わっている。

ブランド戦略で売り出した「飛騨のあばれ鮎」

ブランド産品づくりにも取り組んでいる。鮎だ。市内の宮川下流で獲れる鮎を「飛騨のあばれ鮎」として売り出し、一流料亭が食材に使うなどブランドイメージを確立した。

「鮎はかつてはあまり顧みられなかったんですが、有名な鮎釣り名人が飛騨に移住してきて、『日本でここの鮎が一番だ』と言うから、鮎の振興を始めたんです。

シェフの招聘ツアーに参加してくれた都内の有名シェフが『とにかくこの鮎はすごい』と使い始めてくれて、いま東京のなだ万の全店舗はすべて飛騨の鮎です」（都竹市長）。

鮎を急速冷凍する冷凍施設への補助金や助成金でブランドづくりをサポートする飛騨市。「ひだのあばれ鮎」は今年、高知県で開催された利き鮎会でグランプリを受賞している。その他に和牛のオリンピック「全国和牛の能力共進会」連覇の実績を持つ飛騨牛、飛騨地鶏、飛騨山菜、朴葉味噌等食材は豊富だ。

産業交流を模索する台湾・新港（シンガン）郷との国際交流

飛騨市は国際交流にも創意工夫を凝らしている。台湾嘉義県の新港郷（郷は市に相当）と友好都市提携を結んでいるが、「友好の形になるものを」と様々な試みにトライしている。

「友好提携は今年で九年目。昨年新港郷に行って、『産業交流を』ということで、こっちのラーメンを輸出したり、向うのゴマ油をこっちで販売するとかの準備を進めています。

市内にクラフトビールをやっている方がいて、クラフトビールは何でもつくれますから、新港郷のパイナップルジュースと飛騨の蜂蜜を合わせたビールを作って販売しました。

新港郷との交流では、形のある交流、しかもお互い楽しめるものをやっています。友好交流のファンクラブを作って、台湾との交流は激しくやっています」（都竹市長）。

町田・阿波市長と都竹・飛騨市長の対談は、山口俊一衆院議員（徳島二区）と古屋圭司衆院議員（岐阜五区）が仲介。「飛騨市のまちづくりを参考にしたら」と町田市長に打診した。

対談を終えた町田市長は「地道に地域資源を掘り起こしていくまちづくりは多くのヒントがあった。薬草を活用したまちづくり等に阿波市もトライしていきたい」と語った。

■飛騨市

岐阜県最北部の市。人口は二万一、三八八人（九月一日現在）。面積の大半は山林。主な産業は自動車部品、家具等の製造業、飛騨牛や野菜等の農業、製材等の林業だ。

観光スポットは、瀬戸川と白壁土蔵街、古川まつり会館、レールマウンテンバイク、宇宙科学館カミオカラボ、新穂高ロープウェイなど。宇宙物理学の研究施設でも知られる。

飛騨市の名前を広めたのが作家の山本茂実が発表した「あゝ野麦峠」。野麦峠を越えて製糸工場に働きに行く女工らの姿を描いた。大竹しのぶ主演の映画やテレビで感動を呼んだ。

都竹市長は現在三期目。筑波大学社会学類卒業元、岐阜県職員。ふるさと納税を財源にした施策、地域資源を掘り起こした観光振興など、人口減少に対応した持続可能なまちづくりに取り組んでいる。

地井武男
大竹しのぶ
あゝ野麦峠
▲映画「あゝ野麦峠」。病気で兄の辰次郎に背負われて帰郷の途中、「あっ飛騨が見える」と言って息を引き取った(1909)。まだ 20 才という若さだった。映画のその場面、野麦峠にある政井みね兄妹の像。

あなたの情報大募集!!
秘密厳守
守秘義務の徹底で情報提供者の方を必ずお守りいたします。

本紙記者が取材し、公益に反する問題点を徹底追及します。情報提供は本紙HPの情報提供フォームの他、メール、FAXでもお受けします。メールの場合は「返信先アドレス」をご記入ください。G-mailでも構いません。

「身元がバレるのでは」と懸念されるかも知れませんが、情報提供者のプライバシーは厳守しますので、ご安心ください。

社会に警鐘を鳴らす内部告発や情報提供をどしどしお寄せください。

〒770-0874
徳島市南沖洲２丁目4-10
㈱トリビューンしこく編集部
FAX：088-664-4809
TEL：088-664-5219
Eメール：tribune@mail.planning21.ne.jp
本紙ホームページ内の［情報提供］からも投稿できます。

購読料：年間 8,400円
トリビューン・電子版
tribune.web
購読申し込み頂くと、スマートフォンやタブレット、PCで最新号の閲覧ができます。ネットニュース（速報）もトリビューン電子版で。
お申し込みはHP www.planning21.ne.jp/tribune/ の申し込みフォームから

隙間の声
徳島県 脱却できるか「ふるさと納税貧県」
寄付額は全国ワースト1

徳島県は「ふるさと納税貧県」からの脱却に知恵を使うべきだ。令和六年度の寄付受入額は約四十三億三千百万円。全国都道府県でワースト1。お寒い状況だ。

ふるさと納税は豪華な返礼品が注目を集めがちだが、自治体にとっては寄付金の半額が収入になり、まちづくりの事業に使える。寄付が増えるほど、財源が増える。

ふるさと納税を増やすコツはポータルサイトなど各種PR媒体の活用だ。寄付のメニューや返礼品の商品数を増やし、PRしてくれるポータルサイトや紙媒体をいかに増やすか。

例えば飛騨市。楽天からネットショップのプロを招き、地域資源の掘り起こしで返礼品を増やし寄付を急増させた。昨年度の寄付総額は約十五億円。徳島県全体の三分の一だ。

徳島県や県内自治体もふるさと納税の利点はわかっているはずだが、PRが下手だ。「使えるものは何でも使う」という知恵と機転、やる気と貪欲さが感じられない。

例えば、県の地域商社が運用する「あるでよ徳島」のサイト。県内の特産ブランド産品を紹介するが、ふるさと納税とのリンクがない。一石二鳥、三鳥の発想がない。

商業施設とのタイアップもできていない。例えば、高島屋。会員向けに「ふるさと納税ガイドブック」という冊子を発行しているが、徳島県内自治体の紹介はなし。

紹介料が要るのかもしれないが、必要経費だ。百貨店など消費者が集まる商業施設とタイアップして返礼品を積極的にアピールし、ふるさと納税制度を有効活用すべきだ。

寄付が増えれば、寄付金だけでまちづくり事業ができる。スーパーカミオカンデという宇宙物理学の実験施設がある飛騨市は、寄付金で体験施設を運営。観光客を集めている。

県内では石井町の取り組みが話題を呼んでいる。寄付金を活用して廃止されていた移動図書館車「ふじっこ号」を復活させ、総務省のサイトでも注目事例として紹介されている。

韓国や香港、タイなどを対象にした国際戦略にトップダウンで取り組む徳島県だが、インバウンド効果は一過性だ。はたして県内自治体はどれほどの恩恵を被っているのか。

寄付の半額が自治体の収入になりまちづくり事業に活用できるふるさと納税。持続可能なまちづくりの財源確保のために、知恵を使って「ふるさと納税貧県」から脱却すべきだ。

TAKASHIMAYA SPECIAL SELECTION
髙島屋
ふるさと納税
2025-2026
ガイドブック
▲高島屋が会員に送る「ふるさと納税ガイドブック」。徳島県内の返礼品は全く紹介されていない。

ザ・チェック
民間委託で発覚した「隠れ経費」

Tokushima Marathon 2025
とくしまマラソン

謎だらけの民間委託だ。来年のとくしまマラソンだ。運営をイベント会社の㈱アールビーズに委託する。民活で経費縮減が期待されたが、なぜか事業費や県負担金が増えている。

マチ★アソビは運営の民間委託で県の負担が減ったが、マラソンは運営の民間委託で県の負担が増えた。イベント運営の民活効果が文化とスポーツで明と暗に分かれている。

今年のマラソンは県が実行委員会事務局を仕切り、実質的に直営した。事業収入は約二億一千万円。県が四千八百万円を負担し、徳島市と徳島新聞が一千万円ずつ負担した。

来年のマラソンも実行委員会方式を継続するが、これまで事務局として県職員が担ってきた業務も含めてアールビーズに委託する。委託料は最大で一億五千八百万円だ。

民間委託で事業費は今年より三千四百万円増えて約二億五千万円になる。県負担金も三千五百万円増えて八千三百万円になる。担当課は増額理由を次のように説明する。

「これまでは県職員が職免扱いでマラソンの主要な運営業務を行ってきた。その人件費が約三千五百万円。その仕事を民間に委託するということです」（スポーツ振興課）。

県職員がやっていた仕事を民間に振るから事業費や県負担金が増えるという論法だが、問題点は二つ。第一点は「人件費は本当に三千五百万円もかかっていたのか」。

スポーツ振興課に三千五百万円の根拠を問うと、「開示できない」との答え。もし、県職員の人件費が三千万円だったなら、五百万円は委託業者へのお手盛りだ。

虚偽だった?! 黒字運営

第二点が「隠れ経費」の存在だ。今年のマラソンの収支には、事務局として運営を担った県職員への人件費支出は見当たらない。本来ならきちんと経費として計上すべきだ。

今年のマラソン収支は約一千万円の黒字。もし県職員の人件費支出をカウントしていたら、約二千五百万円の赤字だ。「隠れ経費」が「赤字隠し」の機能を発揮していた。

もし県職員の人件費をこれまで事業費に紛れ込ませて計上していたなら、来年の民間委託で事業費を増額する必要はない。県職員への人件費支出を民間にまわせばいいだけだ。

民間委託の目的の一つは経費縮減だ。県はプロポーザルでアールビーズを選んだが、プロポーザルに参加したのは同社だけ。競争原理は働かず、言い値委託だ。

来年のマラソンは今年と同じコース。異なるのは運営の民間委託。民間委託でなぜ経費が増えるのか。隠れ経費や赤字運営が発覚したマラソン。運営実態をきちんと開示すべきだ。

「客を横取りされた」と伊勢県薬剤師会副会長とともに㈱グローバル・アシストから訴えられた調剤薬局のレリーフ㈱。動産を愛知の大手調剤薬局・㈱スギ薬局が譲与登記。「M&Aでスギ薬局の傘下に入るのか」と話題を呼んでいる。

徳島県庁女性幹部職員、自家用車の中で男性と密会する「駐車場不倫デート」で有名。新町川沿いの民間駐車場で、「相手は県職員か、民間利害関係者か」と話題に…。